ICTTP2012参加報告書

中村 愛 早稲田大学大学院人間科学研究科

【学会の様子】

私は8月末にオランダのフローニンゲン大学で開催された第5回 国際交通心理学会に参加し "Rest and Accident of Taxi Drivers"と いうタイトルでポスター発表を行いました. 国際学会に参加するの は初めてだったため当初は緊張していましたが、発表会場ではアル コールと軽食が振る舞われ、聴講者がワイングラスを片手にポスタ ーを見て回るアットホームな雰囲気で、積極的にディスカッション することができました. 今回発表した研究は、タクシードライバー を対象に無事故群と事故群の休憩の取り方を比較し、両群の休憩量 に差はないが、無事故群は毎乗務同じ時刻に同じ長さの休憩を取っ ていることを明らかにしたものでした.



発表ポスターの前で



スイスの研究者からは"いつも同じ時刻に同じ長さの休憩 を取ることが望ましいことは何となく分かっていたが、それ を数値データで示せたことは素晴らしい. "というコメント を頂きました、ドイツの研究者からは"運転だけではなく、 勉強など他の作業をする時もいつも同じ時刻に同じ長さの休 憩を取った方がエラーが少なそうだ."というコメントを頂 きました. 今後は頂いたコメントを元に他の分野への応用も

検討したいと思います.

ポスター発表終了後は、フローニンゲン市内の素敵な教会 で懇親会がありました. レセプションではナイジェリアの女 性研究者とドライバー教育について話すことができ、ナイジ ェリアでは多くのドライバーが免許を持っておらず、免許も 賄賂を払えば得ることができることが社会問題となっている ことなどを知りました.



レセプションでの会話の様子



素敵な教会

食事の席ではフィンランドのご夫婦、地元フローニンゲンのご夫婦、日本自動車研究所の大谷亮先生、早稲田大学の島崎敢先生、立教大学の芳賀繁先生と会話を楽しむことができました。フィンランドのご夫婦は奥様が研究者で、島崎先生がポスター発表された(著者も連名) "Driver Education using a Tablet Device and Movies of Accidents Recorded by Drive Recorders"の内容を説明すると、"タブレット端末を

使って実験やドライバー教育をできれば、実車と違ってガソリンを使わないからエコで素晴らしいわ."と感心していました。タブレット端末を使った研究についてそのような視点で考えたことがなく、風力発電が発達しているエコなヨーロッパならではの意見だと思いました。また、ご主人は盆栽が趣味だったり、海苔煎餅が好物だったりと日本にとても造詣がある様子でした。私は恥ずかしながらフィンランドについてほとんど知識がなく、日本の良いところをお話頂くばかりで、世界のことをもっと勉強する必要性を痛感しました。

今回の国際学会参加は、今世界でどのような研究が行われているのか知ることができた 貴重な機会だったと思います。オランダ開催ということもあり自転車に関するテーマが多 かったことなど、それぞれの国の交通事情によってブームになっている研究テーマが違う ことも興味深く感じました。また、学会参加者約 400 名のうち日本人参加者は 23 名で、 他国の研究者から"オランダは遠いと思うけど、日本はたくさんの研究者が発表していて 素晴らしいね。"と話し掛けられました。私はこれまでほとんど世界に目を向けて活動で きていませんでしたが、今後は積極的に国際学会に参加して世界の研究動向を把握したり、 英語論文を書いて研究成果を世界に発信したりする重要性を感じました。この貴重な経験 を生かして今後は研究活動に励みたいと思います。

【街の様子】

今回の学会参加の最大の目的は研究発表を行うことでしたが、オランダの交通環境を生で見れる貴重な機会でもありました。日本とオランダの交通環境の違いにも注意深く目を向けて観察してみました。最初に肌で感じたのは、アムステルダムに到着して間もない頃、道路を渡る時に左側から来た路面電車に気付かずひかれそうになったことです。日本は左側通行のため、私は右側から来る車だけ確認する癖がついてい



アムステルダムの街の様子

たためだと思います. 逆に右側通行の国の方が左側通行の国を訪れた際は同様の危険性があるので注意が必要だと感じました. また, アムステルダムで石畳にパンプスのヒールがはまり度々足を取られ, ヨーロッパの道路を歩いている実感がわきました. 石畳の道路は

水で掃除されており滑りやすくなっていたため慎重に歩きました. 石畳は風情がありますが, 道路が凸凹しているため, 高齢者や車椅子の方は不便に感じることもあるだろうと思いました. 一方で, アムステルダムは路面電車が非常に発達しており, 車の渋滞がなく生活しやすい街だと思いました. また"水の都"と言われているように街中に運河が流れ, 水上運送が発達していました. 運河には"ボートハウス"と呼ばれる素敵な家々が浮かび, そこで生活している人がいることにも驚きました.

学会が開催されたフローニンゲンは路面電車はありませんでしたが、バスが小さい街の中を頻繁に走り回っていました。多くの人々が明るい時間帯からオープンカフェでアルコールを楽しんでいましたが、バスが充実しているので飲酒運転しにくい街づくりだと思いました。



タクシードライバーと一緒に

私は学会でタクシーに関する発表をしたので、オランダのタクシーに乗ってみたいと思っていました。オランダは流しのタクシーがほとんどいないと聞いていましたが、バスが充実しているためか駅周辺にもつけ待ちのタクシーが全くおらず、ホテルでタクシーを呼んでもらいました。20分後に若い男性が運転する車が到着したのですが、日本では若いタクシードライバーが多くないので、最初迎えのタクシーだと気付

きませんでした. ドライバーは陽気な方でオランダのことを色々教えてもらいました. その中でも, オランダの信号はバスを感知するセンサーがついており, バスが近づくと信号が赤から青に自動で切り替わる話が興味深く感じました.

アムステルダムでは右側通行に慣れず路面電車にひかれそうになりましたが、日本では沖縄返還時に右側通行から左側通行に一斉に切り替わったため、多くのドライバーが戸惑いを感じたと聞いています。右側通行で運転できる機会は滅多にないので、学会終了後はレンタカーを借りて実際に運転もしました。まず、日本のレンタカー会社には当たり前にあるオートマチック車が一台も用意されておらず、マニュアル車



左ハンドルのマニュアル車で

しかないことに驚きました.右側通行で最も戸惑ったのは,交差点を通過する時とロータリーを走行する時でした.30分くらいすると次第に慣れてきましたが,逆走しそうになることもあり,沖縄の方々は大変だっただろうと思いました。また,郊外の道路は普通のアスファルトですが,街中の道路やロータリーは石畳になっていたり,交差点にはぼこぼことした段差がつけてあることに気付きました。歩いている時は気付きませんでしたが,運転をしてみて各所にスピードが出ないような工夫が施されていることを体感することがで

きました.



自転車が多いフローニンゲンの市

"ヨーロッパは自転車社会"と言われているように、オランダの自転車事情を観察することも楽しみにしていました. アムステルダムもフローニンゲンもやはり自転車利用者が非常に多く、自転車専用道路が整備され、至る所に自転車置き場が設置してありました。電車にも自転車を持って乗車することが許可されていました。近年日本では歩道を暴走する自転車が問題となっており、ヨーロッパのような自転車専用道

路を望む声が聞かれます.しかし、アムステルダムの街を歩いていると、すれ違う時に車は歩行者に道を譲ってくれることが多い一方で、自転車はベルを流しながらスピードを出して通過することが多く、全体的には多少横暴な印象を持ちました.今後日本でヨーロッパの自転車社会を参考に整備を進めていく場合は、インフラの整備だけではなく、自転車に乗る人に対しても交通他者に配慮するような教育を進めて行くことが重要だと思います.

【付記】

この度国際交通心理学会の参加費用を助成して頂き、日本交通心理学会会員と学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。学生の私にとって国際学会の参加費用を捻出することは難しく、参加しようか迷っていましたが、助成金に背中を押して頂いたおかげでこのような貴重な経験を得ることができました。この経験を生かし今後も研究活動に励みたいと思います。

